

【獣医師求人物語：継承・理念タイプ】

「技術は盗め」なんて言いません。
私の持てるすべてを、
あなたに継承します。

院長の〇〇です。正直に言います。

当院は今、大きな転換点に立っています——

これまで私は、「自分が一番動けばいい」「自分が最高の治療をすればいい」と思って走り続けてきました。

しかし、ある日、待合室で不安そうに待つ飼い主様の顔を見て、ハッとしたのです。

「私一人では、すべての『不安』を取り除いてあげることにはできない、、、」

どれだけ手術の腕を磨いても、私一人の手は2つしかありません。

私がオペに入っている間、診察室で震えているあの子や、説明を聞いたがっている飼い主様を待たせてしまう。それが、悔しくてたまらなかったのです。

だから、方針を180度変えることにしました。

「私の技術を、隠さず全部渡そう」

昔ながらの職人のように「背中を見て覚えろ」
なんて言いません。

私が10年かけて培った診断のコツも、外科手術の勘所も、失敗から学んだ痛い教訓も、私が10年かけて培った診断のコツも、外科手術の勘所も、失敗から学んだ痛い教訓も、すべてあなたに言葉で伝えます。

10年分の私の試行錯誤を、
あなたは1年でショートカットしてください。

私があなたに継承したいのは、メスのさばき方
だけではありません。

もっと泥臭くて、もっと大切な「動物と家族に向
き合う姿勢(魂)」です。

■ 「3分診療」に、疲れ果ててしまった先生
へ。

もし先生が今、「とにかく件数をこなせ」「売上
を意識しろ」というプレッシャーの中で、獣医師
としての誇りをすり減らしているなら…

この文章は、あなたのために書かれたもので
す。

先生は、「獣医師の仕事は、動物の病気を治すこと。」だけでいい、と思っていますか？

私たちは、少し違うと考えています。

病気を治すことは大前提です。

しかし、それだけでは 50 点。

残りの 50 点は、「飼い主様の『心の不安』を治すこと」です。

どれだけ正しい診断を下しても、飼い主様が

「忙しそうで遠慮して質問できなかった」という

モヤモヤを抱えて帰られたなら、その診療は失

敗だと、当院では考えています。

当院は、回転率よりも「飼い主様の納得」を最優先にしています。

効率化が求められる時代に逆行するような、少し不器用な動物病院です。

でも、この「不器用さ」こそが、私たちが守り抜きたいプライドなのです。

■ 私たちが、「回転率」を捨てた理由。

当院の診察室では、時折、長い沈黙が流れます。

それはパソコンの画面を見ている時間ではありません。

飼い主様が言葉に詰まりながらも、不安を吐き出そうとしているのを待つ時間です。

以前、ある先生が言いました。「前の病院では、時計をチラチラ見ながら診察していました。飼い主様の目を見るより、待合室の混雑が気になってたんです」

多くの病院経営において、回転率は正義です。しかし、その代償として「獣医師のやりがい」と「飼い主様の信頼」が犠牲になっているとしたら？

私たちは決めました。

「時計を見るのはやめよう。その代わりに、飼い主様の目をしっかり見よう」と。

誤解のないように申し上げますが、これは「ダラダラ残業をして長く話す」という意味ではありません。

「最初から、1件あたりの診療枠を十分に確保する(ゆとりを持つ)」ということです。

納得いくまで説明してください。ホワイトボードで図を描いてもいい。涙する飼い主様の背中をさする時間があってもいい。その分、1日の件

数は減るかもしれませんが、それでいいのです。その分はチームでカバーすればいい。

「先生の丁寧な説明のおかげで、後悔なく〇〇の治療（や手術）を選びました」。そう言うだけでなく価値は、何十件のルーティンワークよりも重いと信じているからです。

■ 当院が求める「効率」とは、「治療」への最短ルートです。

「時間をかける＝非効率」と思われるかもしれませんが。

しかし、実は逆です。

説明不足のまま治療を進めると、どうなるか。

投薬ミスが起きたり、不信感による転院が起きたり、あるいはクレームに繋がったりして、結果として膨大な時間がかかります。

逆に、最初に膝を突き合わせて「納得」を作れば、飼い主様は最強の治療パートナーになります。

自宅での看護も積極的になり、治療効果が上がる。

結果として、動物は早く元気になり、先生たちスタッフも定時に帰れる。

これが、私たちが目指す「真の効率化」です。
流れ作業でさばくのではなく、一例一例に魂を
込めて向き合うこと。それが病院の評判となり、
経営を安定させる唯一の道だと確信していま
す。

■ ここには、先生の想いを縛るようなマニュアル
はありません。

当院にあるのは、ガチガチのマニュアルではな
く、「自分の家族（ペット）だったらどうする
か？」という判断基準だけです。

「この子は怖がりだから、まずは床で遊ぼう」

「費用を気にされているから、松竹梅の3プランを提示して一緒に悩もう」

そんな人間味あふれる判断を歓迎します。

私があなたに「すべてを継承する」と言ったのは、まさにこの判断基準の部分です。

教科書には載っていない、「その子にとってのベスト」を導き出す思考プロセスを、私の隣で吸収してください。

私たちは、先生を「診察を回してもらうため」として採用するつもりはありません。

「一人の獣医師として、どうありたいか」
を応援する場所でありたい。

高度医療を学びたいなら支援します。
ゼネラリストをご希望なら、その土壌がありま
す。

(将来の独立を目指されているなら、経営や集
患ノウハウも伝えていきます)

ただ一つ、約束してほしいのは、
「動物と飼い主様の心に嘘をつかないこと」だ
けです。

■ もう一度、理想の医療をやり直しませんか？

冒頭で私は、「私の持てるすべてを継承する」とお伝えしました。それは、あなたが単なる「労働力」ではなく、私の「右腕」となり、やがては私を超えていく「パートナー」になってほしいからです。

先生が学生時代、夢見ていた獣医師像は、ベルトコンベアのように患畜をさばく姿ではなかったはずです。

「ありがとう」の重みが違う。

「先生に診てもらえてよかった」という言葉が、心からの叫びとして届く。そんな毎日が、ここにはあります。

効率重視の医療に疲れ、獣医師という仕事自体をイヤになりかけている先生、そして、私が活躍する場所は今の場所ではないと思われる先生。

お願いです。

一度私の話を聞きに来てください。

先生が本来持っている「優しさ」と「情熱」を、必要としているご家族が待っています。

そして、その情熱を受け止め、全力で技術を注ぎ込む準備が出来ている私が待っています。

私たちと一緒に、胸が熱くなるような医療で社会に貢献しませんか？

まずはコーヒーでも飲みながら、
これからの獣医療の話をしましょう。

あなたからのご連絡を、
心よりお待ちしております。

※これは、動物病院業界を研究して、私が創作した物語やセリフですので、先生のお考えや方針に修正させていただきます。「貴院専用物語の初稿」提出後にお気軽にお申し付けください。